

大妻精神の継承と具現

—聞き取り調査を通じ大妻の教え・学びを探る 2—

Devolution and Realization of Otsuma spirit
Through interview survey-Looking for our Otsuma's mind, telling and way

高垣 佐和子¹, 井上 小百合², 里見 脩³, 上田 香十里²
Sawako Takagaki¹, Sayuri Inoue², Shu Satomi³, and Katori Kanda²

¹大妻女子大学博物館大妻コタカ・大妻良馬研究所, ²一般財団法人大妻コタカ記念会,
³大妻女子大学文学部コミュニケーション文化学科

キーワード : 大妻コタカ, 大妻精神, 聞き取り調査

Key words : Kotaka Otsuma, Otsuma spirit, Interview

1. 研究目的

大妻学院は 2018 年に創立 110 周年を迎え, 2020 年には学祖大妻コタカ先生没後 50 年を迎える。大妻コタカ先生の遺した業績及び建学の精神を次世代へ継承していくことは大妻学院として極めて重要である。

申請者らはこれまで卒業生対象の座談会やアンケート調査等により大妻コタカ先生から受けた直接的な教え, また大妻での学び・教えなどを同窓会誌等で明らかにしてきた。

更に, 平成 28 年度の共同研究プロジェクトにおいて, 卒業生及び大妻コタカ先生と交流のあった方々に対し聞き取り調査をした結果, 大妻精神は「自分を磨くこと」「学び続けること」「女性の鏡」「らしくあれである」といったキーワードを引き出すことができ, 大妻精神が卒業生個々の人生に影響を与え, 現在なお息づいていることを明らかにした。

本研究では引き続き聞き取り調査を実施し, 大妻先生に縁のあるものをおし, 大妻の教え・学びを明らかにし, 大妻コタカ先生の残された大妻精神の継承と具現を顕彰することを目的としている。

2. 研究実施内容

一般財団法人大妻コタカ記念会及び大妻地方同窓会等の協力を得て卒業生及び大妻コタカ先生と交流のあった方を紹介いただき, 地元へ赴くなど聞き取り調査, 現地調査を実施。

調査・インタビューは 14 回実施した。次に (1) 卒業生からと (2) 大妻コタカ先生と交流のあった方等からの 2 つに分け, 更に時系列で示した。

(1) 卒業生から

①2017 年 7 月 8 日 : 大妻同窓会長野の協力のもと, 原氏宅 (長野県諏訪市湖南 4423) に於いて, 昭和 18 年 10 月大妻技芸学校第 2 部師範科を繰り上げ卒業後, 諏訪市の小学校で定年まで教諭として勤務した方と昭和 28 年 3 月卒業後, 中学校・高等学校で教諭をされた方 2 名から座談会方式による聞き取り調査を実施。

②2017 年 7 月 17 日 : 大妻同窓会長野のもと, 森のカフェテラス (長野県上伊那地郡南箕輪村大芝 2358-5) に於いて, 戦後の大妻で学び昭和 23 年 3 月卒業後, 高等学校教諭をされた方と, 学友会長として叙勲の栄に輝かれたコタカ先生と関わった昭和 40 年 3 月の卒業生から座談会方式による聞き取り調査を実施。

③2017 年 8 月 28 日 : 料理旅館 (広島県世羅郡世羅町本郷 25-2) に於いて, 大妻女子大学在学中は大妻コタカ先生と居住を共にし, 卒業後は甲山の大妻女子専門学校で先生をされた方から聞き取り調査を実施。

④2017 年 8 月 28 日 : 大元氏宅 (広島県府中市上下町矢野甲 861) に於いて, 昭和 33 年 3 月卒業, 給費生として大妻女子大学二部で学ばれ, 卒業後教員をされた方から聞き取り調査を実施。

⑤2017 年 8 月 30 日 : 岡山県共生高校 (岡山県新見市新見 2032-4) に於いて, 大妻の卒業生が創

設した学校長と大妻コタカ先生と関わった同校職員の方から聞き取り調査を実施。

⑥2017年11月27日：大妻同窓会長野協力のもと、茅野氏宅（茅野市宮川 2592）に於いて、大妻コタカ先生と親交のあった方と昭和31年3月卒業で高等学校教諭として勤務された方2名から聞き取り調査を実施。

（2）大妻コタカ先生と交流のあった方等から

①2017年6月20日：大妻コタカ記念会館（東京都千代田区三番町 14-11）に於いて、昭和2年から現在も大妻の制服制作を担当している株式会社パリス会長から聞き取り調査を実施。

②2017年8月27日：大妻コタカ先生生家（広島県世羅郡世羅町川尻 914-1）に於いて、熊田賢喜氏からの聞き取り調査及び熊田家の墓標調査、大妻コタカ先生が寄進した鳥居の確認調査を実施。

③2017年8月28日：兼丸氏宅（広島県世羅郡世羅町井折 30-2）に於いて、地域の季刊雑誌記者を勤め、三川ダム建築による久恵部落の当時の様子、熊田家移転に直接関わった地元の方から聞き取り調査を実施。

④2017年8月28日：伏原氏宅（広島県世羅郡世羅町伊尾 766）に於いて、ダムに沈む以前からコタカ先生と親交のあった地元の方から聞き取り調査を実施。

⑤2017年8月29日：大目氏宅（広島県福山市赤坂町赤坂 1310-10）に於いて、大妻良馬先生姪孫及び曾姪孫から大妻家についての聞き取り調査を実施。

⑥2017年11月4日：大妻コタカ先生生家（広島県世羅郡世羅町川尻 914-1）に於いて、熊田賢喜氏からの聞き取り調査及び生家所蔵の写真調査を実施。

⑦2017年11月5日：伏原氏宅（広島県世羅郡世羅町伊尾 766）に於いて、大妻コタカ先生と関わった地元の方から聞き取り調査。

⑧2017年11月6日：戸波小学校（高知県土佐市家俊 2478）に於いて、学校長に面会し、大妻良馬先生が大正3年に戸波小学校に寄贈した門柱及び大妻良馬先生とコタカ先生の業績や人徳をたてる記念碑の調査を実施。

3. まとめと今後の課題

聞き取った内容を（1）大妻での学びの様子（2）卒業後「教員」として勤務した経験から（3）大妻先生に縁の「もの」からの3点の大項目を掲げ

大妻の教え・学びを顕彰する。

なお、当初は卒業生より寄贈をしていただいた学生時代の授業制作品・授業ノートなどの資料、大妻女子大学博物館及び一般財団法人大妻コタカ記念会所有の未だ明らかにされていない卒業生授業制作品・授業ノート等の整理を行い、聞き取り調査から得る言葉と学生時代の授業制作品などの物とおし、大妻の教え・学びを明らかにする計画であったが、計画後新たに90歳に近い高齢の方から複数名聞き取り調査可能となったため聞き取り調査を優先的に実施することとした。

（1）大妻での学びの様子

聞き取った内容を大妻で学んだ時代別に分けて示した。

①昭和初期

大妻で学んだ理由として、長野県松本高等女学校（現松本蟻ヶ崎高等学校）に在学中に大妻コタカ先生が、大妻先生宅に寄宿し大妻で学ぶ者を探しに来られた折、選抜され大妻で学んだとのこと。

昭和5年大妻技芸学校は、高等家庭科、高等技芸科、研究科等の卒業生に小学校、中等学校の教員免許取得が可能となっている。大妻コタカ先生が、優秀な生徒を集め、大妻で厳しく指導し、免許取得可能な学校へと学校を発展させていくことに努力をされていたことをうかがい知ることができる。

②昭和10年代

A. 大妻で学んだ理由は、長野県の女学校を卒業後上京し、神保町の岩波書店に勤務。勤務先の社長の「学問は人生に必要である」とする考えのもと、勤務先に近い大妻技芸学校に夜学があり受験をした。大妻の授業は夜学だからと手を抜くことがなく、和裁には早縫い競争があり、調理実習も充実していた。厳しい指導だったので、提出物を徹夜で仕上げることもあった。指導される先生方がピンとされており、授業を通して苦しい時に我慢すると直ぐに諦めない気持ちを持てることを体得できた。

入学時50人のクラスが2クラスあったが、卒業時には50名に減り、そのうち25名が教師になった。当時の大妻に夜学があり学べたことを感謝している。東京の学校で学んだことは一生の宝である。

B. 昭和15年大妻で学ぶことに憧れ28歳で大妻技芸学校に入学、授業は最前列で受けた。昭和19

年大妻技芸学校第 2 部師範科を卒業後、大妻コタカ先生を敬愛し、昭和 25 年に郷里で学校を創立した。

③昭和 20 年代

A. 昭和 23 年卒業生。在学中大妻コタカ先生は公職追放となられ学内に立ち入ることを禁じられていたが、大妻コタカ先生の教えは助手の先生方を通じてなされていた。

戦後の時代で、物資もライフラインも調わず学びに苦労があったが、反面工夫する力が身についた。時代的にまだ停電が多く、宿題は電車では停電がないと考えて山手線に乗り宿題を行った。

卒業アルバムを製本することが可能な時代ではなかったので、写真を各自貼ってアルバムを作成した。大妻には講堂がなく、卒業式は早稲田大学の大隈講堂だった。

B. 昭和 28 年卒業生。母校の高等学校の恩師が大妻の卒業生で、その先生に大妻への進学を薦められた。短大に入学し卒業後中学校の教諭となったが、更に学部で学び高等学校の教諭の資格を得て高等学校の教諭となった。

大妻には夏休みの講習会があり、帰省をせず講習会で瓶細工などの講習会を受講した。

④昭和 30 年代

大妻で学んだ理由は、大妻コタカ先生の故郷世羅の隣町には今で言う指定校制度があり、広島県府中市上下町の上下高校から 2 名大妻女子大学へ進学するルートがあった。東京で寮生活ができ、昼は大妻で働き、夜学で学べ、奨学金もあるというとても有難い制度であった。学校から 2 名だけの狭き門であった。この制度は大妻コタカ先生が上下高校に来校され、制度ができたそうである。

大妻では夜学でも教員免許を取得ができ、卒業後は教員として働いた。大学での勉強が厳しく、教員となっても役に立った。

(2) 卒業後「教員」として勤務した経験から

①昭和 6 年に卒業後、小学校の教諭として勤務し、その経験を活かし結婚後主婦となった後は、婦人会の初代会長として大妻コタカ先生・村岡花子先生などを招聘し、講演会を開催するなど社会貢献をした。

②教師の世界は平等で、実力があれば認めてもらえた。人前に立って自分の意見をきちんと言える女性であることは、「らしくあれ」の大妻の教えである。

③1 つのことを教えるためには、3~5 の土台が

あって 1 つ教えることができる。「恥を知れ」の校訓どおり、自分に恥ずかしくないよう常に勉強し教場に立った。

④大妻教育は厳しく、教員になっても困ることがあまりなかった。

⑤戦後の物のない時代に教諭となったが、大妻での工夫された授業の中から、代用品の調理実習を行った。

(3) 大妻先生に縁の「もの」から

①制服

昭和 2 年から現在も大妻の制服制作を担当している株式会社パリス会長から聞き取り調査を実施。

パリスが大妻の制服を担当するきっかけは、先代が昭和 2 年大妻家に飛び込み営業をしたことに始まるとのこと。一見にもかかわらず大妻コタカ先生は快く招き入れてくださり、結果大妻コタカ先生考案の三角襟セーラー服が誕生となった。

一見で訪問した帰り、「細く長くお付き合いを」の言葉に対し「いいえ、太く長いお付き合いを」と大妻先生は返されたそうである。

戦後、大妻も戦争で木造校舎が焼けてしまったにもかかわらず、焼け残った地下の一部を東京学校服協同組合のためにスペースを提供している。困ったときはお互い様、大妻コタカ先生の度量の深さを物語るエピソードである。

②熊田家墓標

ダム底から引きあげられた大妻コタカ先生生家熊田家先祖墓が、生家近くに 20 数余並ぶ。墓標から 389 年前の熊田家まで遡ることが出来ることがわかり、熊田家は庄屋を勤めたことがあることもわかった。

③鳥居

ダムに沈む前のコタカ先生生家東南方に竜神さまをお祀りしている大龍神社があり、昭和 7 年、大妻コタカ先生は兄と共に鳥居を奉納していることが解り、ダム底から引きあげられた場所に現在あることがわかった。

④熊田家収蔵写真

熊田家収蔵写真 79 点を調査した結果

A. 大龍神社鳥居の奉納

B. 道路改修寄附者名碑の存在

C. コタカ先生の姪である金子氏が昭和 5 年 3 月大妻技芸学校裁縫部高等科を、昭和 6 年 12 月に裁縫部研究科を卒業し、昭和 8 年 4 月から技芸学校裁縫第 2 部で教えていたことが判明。

D. 昭和 16 年大妻技芸学校第 2 部師範科の卒業

生が岡山で学校を創設し、現在も経営している。

⑤戸波小学校門柱・大妻先生記念碑

大妻良馬先生が大正3年に寄贈した門柱及び大妻良馬先生・大妻コタカ先生の業績や人徳をたたえる記念碑の調査を実施することができた。

門柱は、1981（昭和56）年に小学校移転移築に際し、関係者の熱意で大妻良馬先生寄贈の門柱を後世に残すために、新校舎の一角に移されている。

本研究による聞き取り調査により、これまで明らかにされていない大妻の歴史、卒業生の活躍を知り、大妻の学び・教えを明らかにすることができた。大妻精神を継承・具現させるために大妻コタカ先生と大妻良馬先生を育んだふるさとの調査、大妻教育を推進した卒業生関わった学校の調査

も必要である。また同時に大妻精神の継承のためにこれまでの聞き取り調査の結果を多くの方に知っていただく方策として「出張博物館」の実施を検討したい。

4. この助成による発表論文等

①雑誌論文

[1]「高垣佐和子・井上小百合他」「大妻教育のルーツ—コタカ先生のふるさと世羅—」「ふるさと」「査読無」「69号」「2017」「74, 77」

付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成（K2908）を受けたものです。